

日本労働年鑑 第52集 1982年版
The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

XIV 政党

6 日本共産党

5 国際問題その他

代表団の海外派遣

八〇年七月以降の一年間、日本共産党の国際活動はきわめて活発であった。すなわち、八〇年八月から一〇月にかけては、ヨーロッパ八カ国(ドイツ民主共和国、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニア、イタリア、フランス、ベルギー、スペイン)に、常任幹部会委員や幹部会委員を中心とする六つの研究代表団や訪問団を派遣した。なお、ポーランドにも研究代表団を派遣することになっていたが、ポーランド側の要請で延期された。また、つぎの各党の大会に代表を列席させた。(1)朝鮮労働党(八〇年一〇月、西沢副委員長ほか)、(2)キューバ共産党(一二月、上田副委員長ほか)、(3)イスラエル共産党(八一年二月、白井中央委員)、(4)ソ連共産党(二月、金子書記局次長ほか)、(5)メキシコ共産党(三月、戎谷副委員長ほか)、(6)ブルガリア共産党(四月、佐々木中央委員)、(7)ドイツ社会主義統一党(四月、浜常任幹部会委員)、(8)ドイツ共産党(DKP)(五月、岡本常任幹部会委員)。このほか、八〇年一〇月にはイタリア共産党のロンゴ議長の葬儀に不破書記局長らが参列した。また、八一年二月にはサハラ・アラブ民主共和国創建五周年式典に西沢副委員長らが列席したが、その帰路、インドのニューデリーで「自主独立派」のインド共産党(マルクス主義)と初の公式会談をおこなった。同じく三月には野間衆院議員らの訪米調査団を派遣し、五月にはハンガリーでひらかれた四四の共産党と三つの民族解放戦線党が参加した国際理論会議に岡本常任幹部会委員が出席した。

日ソ両党会談

一五年間も断絶状態にあった日本共産党とソ連共産党の関係は、七九年一二月にモスクワでひらかれた両党の首脳会談の結果、公式に「正常化」した。しかし、その直後にソビエトのアフガニスタンにたいする軍事介入がおこり、日本共産党は、ソ連の行動を内政干渉、主権侵害として非難し、ソ連軍の早急な撤退を要求した。その後も日本共産党はアフガニスタン問題やポーランド問題に関連してソ連をきびしく批判しつづけているが、両党は断絶状態にはなく、八〇年一二月には東京で日ソ両党の公式会談がひらかれている。ただし、「会談では、双方がそれぞれ関心をもつ諸問題について意見をのべた」とどまり、共同声明などは発表されなかった。この会談で、日本共産党は「アフガニスタン問題の真実を解明し、軍事干渉の誤りを是正することを最大の主題としてとりあげた」という。

国際誌『平和と社会主義の諸問題』の改善を提案

『平和と社会主義の諸問題』は、「国際労働・共産主義運動での意見交換」の場として、一九五八年

に創刊された国際誌である。日本共産党も五九年末から、チェコスロバキアのプラハにある同誌編集局に常駐代表を派遣している。八一年一月六日、日本共産党は、同誌の編集内容が、特定の党とその指導者の活動を称賛したり、特定の党を攻撃するキャンペーンを組織するものとなっていること、また編集委員会が創刊当時選ばれた一二の党が二三年間も改選されず、また編集局長がソ連共産党によって固定的に占められていることなどを批判し、それらの根本的改善を提案した中央委員会名の書簡を同誌編集局に手交し、またその写しを同誌活動に初期から関係をもっている各国の共産党、労働者党に送った。書簡の全文は『赤旗』八一年一月一二日付に掲載された。この書簡にたいし、同誌の編集委員会は一月八日付で返書を寄せたが、日本共産党は「返書は提起した問題への回答を避けている」として、二月八日付で再度書簡を送った(『赤旗』二月一五日付)。この二度目の書簡にたいし同誌編集委員会は、プラハ駐在の日本共産党代表に口頭で非公式の回答をおこなった。これにたいし、日本共産党は六月一八日付で三度目の書簡を手交した(『赤旗』六月三〇日付)。

“伊藤律帰国問題”

八〇年八月二三日、中国政府は元日本共産党政治局員・伊藤律氏が北京で生存しており、帰国を希望していることを発表した。以後、この問題にかんする報道が新聞、週刊誌などをにぎわした。これにたいし、共産党は翌二四日、広報部名で、「彼は一九五八年、わが党から除名処分が確認された人物で、それ以後わが党は彼となんらのかかわりあいももっていない」とする見解を発表、さらに同月三〇日にも「伊藤律の帰国をめぐる問題について」と題する広報部のコメントを発表した。この発表文で共産党はその除名経過を明らかにするとともに、帰国後は、私生活には介入しない、ただ、その言動が「わが党に不当なかかわりをもつ場合、党として必要な対応をする場合がある」との態度を表明した。九月三日、伊藤氏は二年ぶりに帰国し、ジャーナリズムは競ってこの問題をとりあげた。共産党は「伊藤律の問題について」と題する野坂議長の全国都道府県委員長会議における発言を『赤旗』九月一九日付に発表したほか、いくつかの論文を発表した。さらに、当初、沈黙を守っていた伊藤氏が『朝日新聞』一二月二二日付から「故国の土を踏みて——伊藤律氏の証言」を連載し、『週刊朝日』も八一年一月二・九日合併号から『伊藤律の証言』全貌」を六号にわたって掲載したことから、これにたいする批判、反論論文を発表した。

全国革新懇の結成

八一年五月二六日、「平和・民主主義・革新統一をすすめる全国懇話会」(略称・全国革新懇)の結成総会が、東京・渋谷の東急文化会館でひらかれた。この全国革新懇は、八〇年二月の共産党第一五回大会での提唱に応じて、全国各都道府県で結成されてきた革新統一懇話(談)会の全国的な連絡組織であった。設立総会には全国四七都道府県の革新懇の代表や統一労組懇、新日本婦人の会、全学連など中央諸団体の代表など三二五人が出席し、「私たちは一九八〇年代を革新統一戦線の結成と前進の時代にするために奮闘します。平和と民主主義、生活向上をめざし、日本の進歩と革新をねがう多くの団体、個人のみなさんが、この運動にすすんで参加して下さるよう、心をこめてよびかけます」とのアピールを採択した。また、後記のような「申し合わせ」と一〇五人の世話人および、つぎの一二人の代表世話人を選出した。上田誠吉、大西良慶、亀田得治、黒田了一、猿橋勝子、寺島アキ子、羽仁説子、引間博愛、細野武男、真下真一、松浦総三、宮本顕治。

【全国革新懇・申し合わせ】

一、この会の名称は「平和・民主主義・革新統一をすすめる全国懇話会(略称・全国革新懇)」とします。

二、この会は、結成総会の「訴え」にもとづき、平和、民主主義、生活向上をめざして、政

治の革新と革新統一を実現するために、自由に話し合い、討論し、必要な協力・共同をすすめることを目的とします。

三、この会は、会の趣旨、目的に賛同する都道府県革新懇話(談)会、中央諸団体、個人によって構成します。会の運営は全員一致制によっておこないます。

四、この会は、趣旨、目的にそってつぎのような活動を行います。

(1) シンポジウム・討論会・懇談会の開催、ニュース・パンフレットの発行、講師の紹介など。

(2) 情勢の推移のなかで必要な諸問題についての見解の発表、共同の活動の提起、推進。

(3) 各都道府県の革新懇話(談)会、中央諸団体、個人の経験交流や必要な連絡協議。

(4) その他必要な諸事業。

五、この会に、世話人、代表世話人、事務室責任者をおきます。

世話人総会は会の総意をまとめます。

代表世話人は会を代表します。

事務室は代表世話人のもとに日常業務を処理します。

六、この会の活動資金は都道府県革新懇話(談)会と参加・賛同の団体、個人の拠出金、および寄付金、事業収入などでまかないます。

七、会の事務所は、東京都におきます。

なお、全国革新懇の参加者は、設立総会当日、個人約一万三〇〇〇人、約一〇〇〇団体、総数三九〇万人と発表された。

【参考資料】〈日本社会党関係〉(1)日本社会党中央本部機関紙局『社会新報』、(週二回刊)、(2)同『月刊社会党』、(3)日本社会党政策審議会『政策資料』、(4)『日本社会党第45回定期全国大会速記録』、(5)社会主義協会(向坂派)『社会主義』(月刊)、(6)社会主義協会(太田派)『社会主義』(月刊)、(7)労働社会問題研究センター『社会労働評論』(月刊)、(8)社会通信社『旬刊社会通信』、(9)現代研究社『しんろ』(月刊)

〈公明党関係〉(1)公明党機関紙局『公明新聞』(日刊)、(2)同『公明』(月刊)、(3)同「公明月報」(月刊)

〈民社党関係〉(1)民社党本部『週刊民社』、(2)同『革新』(月刊)、(3)民社党政策審議会『政策と討論』(月刊)、(4)全日本労働総同盟『同盟』(月刊)、(5)民主社会主義研究会議『改革者』(月刊)

〈日本共産党関係〉(1)日本共産党中央委員会『赤旗』(日刊)、(2)同『理論政策』(月刊)、(3)同『前衛』(月刊)、(4)同『議会と自治体』(月刊)

以上のほか『朝日新聞』、『読売新聞』、『毎日新聞』、『世界』、『エコノミスト』を利用した。なお、月刊誌だけでなく一般週刊誌までカバーした政党関係の雑誌記事のリストとして、日本共産党『赤旗・評論特集版』(週刊)に毎号掲載される「雑誌記事」がある。

日本労働年鑑 第52集 1982年版

発行 1981年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月18日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
